

## 「創造産業育成と環黄海主要都市連携」ワークショップ

財団法人国際東アジア研究センター（ICSEAD）では、標記の研究課題のもと調査・研究を推進してきた。以下では、当該プロジェクトの報告会として開催したワークショップの概要を紹介する。

創造産業とは、近年、英国で盛んになっている新しい産業分類であり、スポーツ、アート、メディアといった文化創造活動を産業化し、市場創造や創価に基づき地域振興の新しいパワーを引き出そうというものである。日本は資源に限りがあるため、新しい付加価値の創造は常に意識しておく必要がある。

地方都市は人材や資金といった経営資源に乏しいため、既存産業を新しい方向で融合させ、新しく創造産業を創出し、限りある経営資源に相乗効果を発揮させる必要がある。福岡市では、「福岡アジアファッション拠点推進会議」で、ファッションを核とした産業振興が始まっている。2008年度から、福岡市をファッション産業の最先端として全国・アジアにアピールする事業を始めている。ファッション産業自体は既存産業であるが、メディアと結びやすく創造産業に変容する可能性を秘めている。

北九州市には、ものづくりの産業技術や産業文化がある。一方、アニメ作家をはじめ創造性の豊かな人材を生み出している土壌でもある。これらの融合をはじめ、広く海外と連携していくことで、新しい可能性を探り、そのニーズに合わせたインフラの整備も重要である。これらの問題意識を背景に、創造産業の創出の可能性、新しいまちづくりの方向性を考察し、政策提言に基づき、地域活性化のための意見交換を行った。

### <プログラム>

2009年1月27日（水）

【開会】山下 彰一（国際東アジア研究センター所長）

【報告1】

横田 一彦（国際東アジア研究センター主任研究員）

「生き残りの戦略 - 創造産業と北九州市 - 」

【報告2】

朴 侗玄（法政大学経済学部教授）

「釜山国際映画祭と地域経済」

2009年1月28日（木）

【報告3】

岩橋 培樹（琉球大学法文学部講師）

「21世紀の暮 - 現代的な創造産業としての現状と可能性 - 」

【講演4】

梅本 克（国際東アジア研究センター上級研究員）

「北九州市における創造活動の普及とコミュニティの役割 - （仮称）北九州市漫画ミュージアムへの戦略提案 - 」

【講演5】

亀山 嘉大（国際東アジア研究センター上級研究員）

「環黄海地域における創造産業の展望」



<会場> 国際東アジア研究センター 6階会議室

<2009年1月27日(水)>

・報告1(15:10~16:20)\*質疑応答を含む

横田 一彦

「生き残りの戦略 - 創造産業と北九州市 - 」

デザイン, 映像, ゲーム, 芸術等からなる創造産業には, 景気変動に関係なく購買・収集される, 大企業ではなく, 個人企業によって供給される, 少数大量生産ではなく, 無制限に財の差別化が可能, 労働が楽しい, 雇用創出的, 高付加価値といった特徴がある。

北九州市には, 多くの娯楽施設(映画館等), 優れた文化施設(美術館, 図書館等)がある。これらを活用し, 専門学校を充実させ, 文化・芸術都市を標榜してもよいのではないか。都市生活が豊かになることによってさらに新しい才能を呼び込むことができる。北九州市はどこの大都市よりも少子高齢化が進んでいる。豊富にある医療機関や医療関係者と協力し, 介護先進都市として, 時代の先端を行く着想と努力があってもいいのではないだろうか。

急激に悪化する経済状況の中で, 既存の要素の長所を活かし, これら創造産業のオプションを考えてみてもよい時期に来ている。

・報告2(16:25~17:15)\*質疑応答を含む

朴 侗玄

「釜山国際映画祭と地域経済」

本報告では, 釜山国際映画祭実行委員会への聞き取り調査に基づき, 釜山国際映画祭の設立背景と成果を考察し, 北九州市の地域活性化の政策案を提示した。

始めに, 釜山国際映画祭の設立では, 映画同好会, 釜山市, メディアの役割が重要であったことを説明した。一般市民からなる「映画同好会」は, 釜山国際映画祭の開催を市に提案し, 市と地元メディアの積極的な支援を得たことで, この事業を

実現させた。次に, 釜山国際映画祭は, 地域活性化の事例として高く評価されていることを紹介した。この評価に基づき, 釜山市はクリエイティブ産業の誘致政策を推進できている。これらのことを踏まえて, 最後に, 北九州市の地域活性化の政策案としては, 東アジア経済交流推進機構を活用し, 釜山国際映画祭と北九州フィルムコミッションとの交流プロジェクトを推進することが考えられる。これによって, 両都市の連携を強化し, 両都市でクリエイティブ産業の集積を伸ばしていくことが期待される。



<2009年1月28日(木)>

・講演3(15:05~15:55)\*質疑応答を含む

岩橋 培樹

「21世紀の暮 - 現代的な創造産業としての現状と可能性 - 」

暮の効用に関する従来の指摘は, ゲーム自体の面白さ, 歴史文化的な価値, 脳への優れた作用, に集約されるが, 現代の暮の役割や可能性はこれにとどまらない。IT(information technology)が進歩するなかで, 伝統的な娯楽でありながら ITとの優れた相性をもつ暮ビジネスの様相も大きな変化を見せている。インターネット回線を通じた遠隔地对局場(ネット暮会所)が急速な勢いで普及し, 東アジアを中心とした潜在的なマーケット

の大きさとも相まって、新時代の基産業が形成されつつある。

本報告では、経済学的な視点から、こうした暮のもつ現代的な可能性を再評価するとともに、暮の元来もつ優れた外部性を前提に、官民一体の協力のもと暮を通じた地域発展への貢献の可能性を議論した。そして、IT時代に暮の新たな可能性に挑戦する(株)きっずファイブ、(株)東洋オンラインの試み、暮を通じた街づくりに挑戦する北九州市と(株)TOTOの試みを紹介した。



• **講演 4** (15:55 ~ 16:45) \*質疑応答を含む

梅本 克

「北九州市における創造活動の普及とコミュニティの役割 - (仮称)北九州市漫画ミュージアムへの戦略提案 - 」

本報告では、創造活動を地元コミュニティを活かして普及させるために、(仮称)北九州市漫画ミュージアムがとるべき具体的な戦略を提案した。まず、創造活動の普及には、3種類のオピニオンリーダーがコミュニティ内に必要であることを説明した。そして、漫画コミュニティの分類に基づき、北九州市に存在するコミュニティの特徴を説明した。具体的な戦略として、コミュニティのオピニオンリーダーを引きよせること、それぞれの

コミュニティの特性に合わせた活動の場を提供すること、北九州市がアジア域内の創造的コミュニティのオピニオンリーダーになることを提案した。

• **講演 5** (16:45 ~ 17:20) \*質疑応答を含む

亀山 嘉大

「環黄海地域における創造産業の展望」

本報告では、スポーツ産業の創造産業化を事例として取り上げ、スポーツがメディアやアートと融合し、一定の成長を遂げてきたことを説明した。しかし、巨大資本によるスポーツ産業の創造産業化には限界があり、プロ野球の球団や日本中央競馬会に見るように、売上高で苦戦しており、成長産業とはいえなくなっている。その原因は、地域の視点、ファンやサポーターの視点に欠けていることにある。

一方で、米国のメジャーリーグ、欧州のサッカー、あるいは、日本のJリーグのように、地域への「愛着」という経営資源を活用し、地道な経営を行っているところもある。

提案事項としては、地域への「愛着心」を育む“北九州ブランド”の総合型地域スポーツクラブの設立のために、都市計画の中に位置づけるとともに、東アジア経済交流推進機構を活用し、交流事業を展開していくことが考えられる。

### 意見交換

これらの5つの報告に基づき、北九州市の地域活性化に向けた意見交換が活発になされた。

• **1日目**

意見交換では、歴史的・文化的遺産の少ない北九州で創造産業を育てていくためにはどうしたらよいか、行政の果たす役割はどこにあるか、といった点で議論がなされた。キーパーソンの発掘で行政が役割を果たせるのではないかなどの活発な意見が続いた。

釜山市と福岡市には映画祭があり，加えて，韓国の現政権が両都市間の連携強化を打ち出している。しかし，これからでも北九州市が釜山市と映画を媒介にして緊密な関係を築くことは，釜山市と北九州市の間の光ファイバーの活用方法も含めて，十分に可能性があるという前向きな議論が続いた。

2 つの報告で共通して強調されたことは，キーパーソンの重要性である。わずか4人の若者たちが酒を酌み交わしながら，ただ「面白い映画を見たい」という動機から始まった釜山映画祭。自分たちがまず楽しむ，という動機から出発する創造産業では，新しいことを面白がる精神と，やり遂げる意志を持つ人物が必要なのではないだろうか。



## ・2日目

意見交換では，囲碁が創造産業として，地域活性化に寄与できるかどうか議論された。インターネットを通じたネット碁会所の普及によって，囲碁のマーケットは拡大したが，その弊害として，地域コミュニティとの繋がりが稀薄になっていく可能性の有無が議論された。北九州市では，日中台で「TOTO 杯国際囲碁大会」が開催されており，国際交流事業が展開されている。こういった現実のコミュニティを市民が大事にし，育てていくこ

とで，バーチャル空間とのバランスを図ることができ，地域活性化に繋がるのではないだろうか。

また，漫画産業の創造産業化に関して，ファッションとコスプレの違いがどこにあるのが議論されるとともに，コスプレのコミュニティを地域活性化に活用していくための方向性が議論された。

最後に，スポーツ産業の創造産業化に関して，現在，北九州市の課題となっているニューウェーブ北九州のJリーグ参加に繋げていくために，地域への「愛着心」を経営資源として活用していくことは重要であるが，その具体的な方向性は，継続的に検討していく必要があることが議論された。

## おわりに

今回のワークショップには，北九州市企画文化局，北九州市立文学館，アジア女性フォーラム，CCA 北九州の方々をはじめ多くの皆様にご参加いただき，地域活性化という共通の方向性に対して，それぞれの立場から意見交換ができ，有意義なものとなりました。記して，御礼申し上げます。今後も，このような機会を通じて，“学官連携”を図り，新しい方策を一緒に考えていければ嬉しく思います。

(参加者：1日目16名；2日目17名)